

十一月四日夜

有光様

朝倉生

一昨日は突然、久方振りにお目にかかり、おなつかしく存じ上げました。あれから帰宅いたしますと郷里から小荷物が届いており、開けてみると椎茸。お珍らしいものではありませんが、御試食していたたけば誠に仕合せに存じ上げます。私の実家は神角山という、昇り一里降り一里の間に人家は一軒もなく、頂上に欽明天皇の御代開基の古寺があります。(国宝の仏像あり)太古は神がくれ山で、後世れがはぶかれて神角の漢字を当はめたものとみえます。戦後この山を開墾して椎茸をやっていますが、どうかするとお化けのような大きなので出来ます。今年のはさほどもありませんが、この山の中から東都に来ているのは私とこの椎茸だけで時々郷愁にひたっているわけです。一晩水にひたして、お醤油のつけ焼きにしますと、生同様に味わえるので、一杯のお添えものに召上がり

下さいませ。

耳が遠くなって、大勢様の前に

出る資格がなくなりましたので、八日

は欠席いたします。次第に

だらしなくなってくる美術界を盛大に

ゆけるように、御尽力のほどをお願い

い申上ます。

草々不一